

令和元年度 中央地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月7日(木)午後7時から午後8時49分まで
- 2 場 所 中央公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、藤田中央区長、菅谷こども・若者未来局長、小林教育局長、石井企画財政局理事、樋口環境共生部長、鈴木中央区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 7人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	子どもを取り巻く環境の改善について
概要	<p>当中央地区には、富士見こどもセンターや弥栄児童館、淵野辺公園を含む18か所の公園や宇宙航空研究開発機構JAXA、博物館等といった豊富な施設があり、子ども達の成長にとって恵まれた環境が揃っているといえる。子ども達の成長過程において、幼い頃からこうした環境を生かした様々な体験に触れ、よく遊び、よく学ぶことは、子ども達の健やかな成長を育むだけでなく、地域への郷土愛を養い、ひいてはシビックプライドを醸成することに繋がるものだと考える。</p> <p>しかしながら、子ども達を取り巻く環境が変化してきている中で、こうした地域内の施設等が十分に生かされていない現状があるようにも思える。その要因として、子ども達が過ごす施設や環境が、子ども達のニーズに合ったものではないことや、子ども達にとって好まれるものになっていないということも考えられるのではないかと。</p> <p>こういった状況の中で、市では現在、「相模原市子ども・子育て支援事業計画」を策定しており、平成27年度から平成31年度までの基本目標の中で、子どもの声をまちづくりに反映させ、子どもの遊びや学習の機会の充実を掲げているところと承知している。このことについて、市ではこの計画に基づいて、子どもの遊び場、居場所の確保として、公園、子どもの広場、ふれあい広場等、子どもの遊び場の充実及び児童クラブの待機児童解消に向けた取組等について、市として中央地区の現状をどのように捉えているのかも含めて、具体的な取組状況についてまずは伺いながら、子どもを取り巻く環境の改善について懇談していきたい。</p> <p>具体的には、中央小学校で実施されている放課後子ども教室事業を富士見小学校においても実施することや、富士見小児童が富士見小学校校庭を平日の放課後に自由に遊べるようにするために開放すること、公園を子どもが利用しやすい環境にするため、地域による公園の利活用ルールづくりの方法等について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>地域主体によるJAXAを活用した教育的文化事業や地域での子どもの健全育成及び地域内の世代間交流を目的とした事業を実施している。</p> <p>子どもが安全・安心に地域内で過ごせるように、地域で定期的に青色パトロールや愛のパトロールを実施し、登下校の際には地域内でボランティアを出して子ども達の安全を見守っている。</p>

	<p>過去のまちづくり懇談会において子どもの居場所づくり等をテーマに掲げ、これまでに中央小学校と富士見小学校の学区の問題や富士見小学校の校庭拡張の問題等に取り組んできた。</p> <p>今年度の中央地区まちづくり会議の中で、公園関係のことについて分科会を設け、調査研究を進めている。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>近年、子どもの数や屋外で自由に遊ぶことができる場所の減少により、年齢の異なる子どもが集団の中で遊び、ふれあうことを通して、他人を思いやる心や豊かな人間性を育む機会が少なくなっていることから、子どもの遊び場や居場所づくりが求められており、中央地区においても、子どもの居場所をつくり確保することが重要であると認識している。</p> <p>本市では児童に健全な遊びを与え、多様なニーズにお応えできるようこどもセンター、児童館、児童クラブ、放課後子ども教室などを運営している。</p> <p>放課後子ども教室事業については、放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりのために実施しているが、基本的な考え方として新たな建物を設置せず、既存の学校施設の有効活用をして運営する「教室実施型」と、こどもセンターや児童館で実施する「事業実施型」を併用して行っている。</p> <p>市としては、放課後の子どもの居場所づくりに注力しており、児童クラブについては全小学校の児童を対象に実施しているところだが、児童クラブに入会していない子どもの居場所について、小学校区内にこどもセンターも児童館もなく、放課後子ども教室事業も実施していないところもあることから、引き続き各小学校区において、子どもが安全に、安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいく。</p> <p>中央地区には小学校が3校あり、中央小学校においては教室実施型の放課後子ども教室を運営している。弥栄小学校については弥栄児童館において、富士見小学校については富士見こどもセンターにおいて、事業実施型の放課後子ども教室を実施している。要望のあった富士見小学校区においては、地域の皆様の一層のご協力をいただきながら、事業実施型の放課後子ども教室の充実に努めたい。</p> <p>その他、キャンプ淵野辺留保地では、禁止事項を極力少なくし、子ども自身が自由に遊びを創造できる場として、冒険遊び場事業を実施している。</p> <p>また、近年では子ども食堂など、地域主体による子どもの居場所づくりの取組が広がっており、中央地区においては、子ども食堂が6団体、無料学習塾が2団体運営されており、市内においても活発に活動されている地区であると認識している。こうした団体との情報交換会を定期的に行いながら、意見聴取や情報交換などを行いながら、子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体が活動しやすい環境づくりを進めている。</p> <p>中央地区の皆様には、日頃からボランティアで、児童の登下校や放課後の見守りをしていただいております。子どもたちが安心して過ごすことができていることに心より感謝しています。</p> <p>今後とも、地域の団体と連携を図りながら、子どものニーズに合った遊び場、居場所の確保に努めていきたいと考えています。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>

	<p>校庭の放課後や休日の利用については、全小学校を対象にアンケート調査を実施して把握している。富士見小学校については、改めて今年に学校に確認したところ、放課後も休日も、児童が校庭で遊んでいるとの回答をいただいている。</p> <p>職員室には放課後にも職員がいるが、校庭の児童を見守りすることは難しい状況であり、何かあった場合には、職員室から対応に向かっている。</p> <p>休日については、学校開放で地域のスポーツ団体が利用することもあるため、課題がある。</p> <p>地域の皆様からは、子どもが校庭で遊んでいないと認識されていると思うが、子どもの生活習慣や遊び方が変わり、外で遊ぶ機会が減少しており、結果として子どもの体力が落ちていることは課題である。この課題には、学校だけでなく、行政や地域、家庭などが連携して子どもたちが外で遊ぶ機会を作ることが大切だと考えるので、今後も協力いただきたい。</p> <p>(教育局)</p> <p>中央地区には18か所の公園があり、都市公園法、相模原市都市公園条例に基づいて管理している。条例で基本的な禁止事項を規定しており、いずれの公園も原則として同じルールで管理している。</p> <p>公園でのボール遊びについては、周囲の人に迷惑のかかるようなボール遊びは行わないようお願いしているが、それ以外の場合は公園の外へ飛び出さないようにするなど配慮していただき、可能としている。</p> <p>市内には3か所のみ、ボール遊びを禁止にしている公園があるが、地元の自治会やマンションの管理組合による話合いを受けて禁止にしている。</p> <p>公園は子どもの遊び場としても重要であるが、専用の運動場ではなく、市民の憩いの場でもある。</p> <p>様々な目的で幅広い年代の利用者がいることから、ある程度のルールを設けることはやむを得ないと考えている。</p> <p>地域による公園の利活用のルール作りについては、それぞれの公園の状況や、近隣住民への配慮を含めて、地域の皆様で考えていただきたい。その際には市も一緒に検討したいと考えているので、公園課へお声がけいただきたい。</p> <p>ルール作りの前提として、子どもが安全で楽しく自由に遊べるためには、地域の皆様の協力が不可欠であり、子どもが危険な遊びや迷惑になる行為をしている場合には注意をするなど、大人の目が届くように皆様の協力をお願いしたい。</p> <p>(環境経済局)</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>富士見小学校の校庭開放について、子どもたちが校庭で遊んでいる状況は承知しているが、保護者への周知がされていない。</p> <p>関連して、先生の働き方改革という観点からみると、先生が見守りを行うということは、同時に先生の負担も大きくなるのが課題として感じる。そのため、PTAとしても、先生に負担が掛からないように事業のスリム化に取り組んでおり、地域の方にも協力頂いて様々な取組を行っているところだが、例えば、行政としては日直代行員を増やすような取組を行うことはできないものか。</p>

市の発言	<p>保護者に対する周知については、先生による見守りが十分にできない状況で、積極的な周知は難しい。</p> <p>働き方改革については話にあったとおり、先生は次の日の授業の準備や行事の対応等で負担が大きい状況にある。</p> <p>校庭の利用に関しては、先生に負担がかからないような取組が必要である。例えば、スポーツ振興計画で各地域にできている総合型地域スポーツクラブと連携することで、子どもたちが放課後にスポーツをできるように地域の皆様と取り組んでいきたい。</p> <p>日直代行員は、校舎を管理する役割があるので、地域の皆様との様々な取組の中で、子どもたちを見守る仕組みづくりを考えていきたい。</p> <p>(教育局)</p>
地区の発言	<p>弥栄児童館のイベント等で、食べ物を扱うことが一切できなくなった。映画上映などをする際にも、中央公民館であればポップコーンなどを提供できるが、弥栄児童館ではできない。</p> <p>公民館と同様の取扱いはできないものか。</p>
市の発言	<p>児童館とこどもセンターにおいて、飲食は一切禁止とさせていただいている。理由については、アレルギーの問題が大きく、子どもの食べこぼしたものを乳幼児が拾って食べてしまうこともある。清掃の問題もあり、現状では全面的に禁止としている。</p> <p>食事をするイベントを子どもたちが楽しみにしていることはよくわかるが、子どもたち全員がルールを徹底して守ることができない中で解禁することは難しいので、食事以外のところで趣向を凝らした事業をしていただければと思う。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>
地区の発言	<p>アレルギーを持っている子ども自身は、食べてはいけないものをわかっているので、食べないのではないか。</p> <p>子どもが楽しく過ごせることが大切であり、アレルギーの問題があるから一律的に禁止とするのは楽しみがなくなるので、子どもの気持ちを汲み取って欲しい。</p>
市の発言	<p>子どもたちがイベント等を通じて学び、社会性を育てていくことが重要だと認識しているが、食べる以外でも、例えば囲碁、将棋、卓球教室など、できることはあるように思う。食に関するイベント等については、調理室がある公民館などを利用いただければと思う。</p> <p>(こども・若者未来局)</p> <p>子どもの飲食について地域の皆様をお願いしたいこととして、アレルギー発症の原因物質や、発症の年齢が多様になっており、本人が気付いていないこともある。アレルギーによっては、ごく少量に触れただけでも発症する場合もある。このような状況においては、弱い人に合わせたルールがあってもよいと考えている。アレルギーのある子どもも他の子どもが食べている姿を見れば食べたくなるのは自然なことで、アレルギーは命に関わることもある。場所によって飲食を禁止するなどの適切なルールを考え、子どもたちにもルールを理解して守ることを学べるように、大人たちに見守っていただければと思う。</p> <p>(副市長)</p>

<p>地区の発言</p>	<p>富士見こどもセンターでは、狭いところに子どもが押し込められてしまっている状態であり、子どもが安心して過ごせる場所、親が安心して預けられる場所という概念が崩れかけてしまっているように感じる。</p> <p>こどもセンターの館長には他学年との交流などの工夫をしていただいているが、もっといろいろな取組が欲しい。言い方はよくないかもしれないが、中央小学校と富士見小学校で格差があると感じている。富士見小学校ではようやく今年から遊ぶことができるようになったのが現状で、少しずつ学校にもいろいろな取組をしていただいているが、切実な現状を打開したいという気持ちを訴えたい。</p> <p>放課後子ども教室は、責任者のような人を地域の人がサポートすることで活用方法が開けると聞いている。公民館で行っている家庭支援講座など地域でも努力している。すぐにはと言わないので、行政にも放課後子ども教室の実現に向けて対応をお願いしたい。</p> <p>過去にも、このままだと問題に発展するという懸念から学区の見直しに取り組んだ経過がある。周りの皆様も一生懸命頑張っているとは思いますが、今後も皆様で知恵を絞って賢い解決策を導きだせたらと考える。質問というよりも、現状を分かかってほしいということが一番に訴えたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>児童数は中央小学校469人、富士見小学校826人と2倍近い。児童クラブの入会状況は中央小学校70人、富士見小学校116人となっている。</p> <p>こどもセンターで約120人の指導等を行うことは無理があることから、富士見小学校の体育館横の教室を確保して第3児童クラブを開設した。</p> <p>実際には、曜日によって利用しない子どももいるので、現状の利用状況は約90人となっており、こどもセンターの館長とも相談し、90人程度であれば世代間交流の観点からも、こどもセンターで一体として利用頂いた方が良いと判断し、第3児童クラブは利用していないのが現状である。</p> <p>児童クラブに入会していない子どももこどもセンターを利用することを考えると、世代間分離という形にはなるが、第3児童クラブに人を配置して運営することで、こどもセンターでゆったりと過ごせるようにすることも考えている。</p> <p>昨日の午後3時頃にこどもセンターへ伺ったところ、おやつの時間であったこともあり、1階には利用者は少なく、2階で1年生から3年生の子どもがおやつを食べていた。食べ終わると、子どもたちは中央公園へ元気に遊びに出かけて行った。目の前に中央公園があることから、校庭よりも中央公園で遊ぶことが主流になっているようであった。</p> <p>児童クラブに入っていない子どもたちには、こどもセンターを居場所として活用していただければと考えている。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>

<p>地区の発言</p>	<p>こどもセンターの現場を見ていただきありがたい。おやつを食べる際のスペースも狭く、子どもたちもストレスが溜まると思う。</p> <p>放課後こども教室に携わる方から伺った話だが、こどもセンターと放課後こども教室の職員を分けて配置し放課後こども教室を設置することで、児童クラブを利用していただいていた方の中でも放課後こども教室の内容でニーズを満たせる方もいることから、結果的に、児童クラブの利用者を緩和することができるようだ。学校に場所がないことは承知をしているが、将来的にでよいので、より学校を開放的にしていくことなど様々な工夫を考えていただきたい。</p> <p>子どもの居場所だけでなく、高齢者の居場所も必要になっている。高齢者は子どもという時が一番若く、子どもの話題が中心であれば、最近なくなっている井戸端会議も行われるなど、子どもが高齢者を結びつけている。</p> <p>先生の負担を軽減できるように地域ができることは協力するので、行政には柔軟に連携してバックアップをしていただきたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>まちづくり会議分科会で公園問題について調査研究を進めており、提案をしたい。</p> <p>中央地区には公園が18か所あるが、そのうち11か所は開発事業基準条例に基づき、マンション建設時に設置された狭い公園がほとんどで、最低限の設備が整っている。他の7か所の公園は、設備が整っていないところもある。</p> <p>公園には自治会の防災倉庫などを置かせていただいているが、もう少し広く利用できるようお願いしたい。</p> <p>公園の利用ルールを市のホームページで見ると表現が曖昧なところもある。</p> <p>自分は相生公園の付近に住んでいるが、相生公園では、朝は太極拳や高齢者が運動をしており、その後は保育園や幼稚園の先生が園児を連れてきて遊ばせている。午後2時頃になると近くの幼稚園に迎えに来た母親と子どもたちが集う場になり、午後4時頃には児童クラブの子どもたちが遊んでいる。</p> <p>特に決められたルールではなく、自然な形で活用されているので、このような事例を周知し、他の公園でも適用していくことを考えていきたいと思う。</p> <p>相生公園には新たな施設が作られたが、どうしてその施設を作ったのかが不明瞭であった。他の公園でも遊具や設備の違いがあるが、理由や意図がわからないことが多いので、設置を検討する際に地域に相談していただきたいと思う。</p> <p>公園そのものや活用法のPRが不足しているように感じる。先日の広報さがみはらに、公園の使い方の記事があったが、使って欲しいのか使わないで欲しいのかよくわからなかった。</p> <p>提案になるが、シニア向けの器具を設置してもらいたい。相生公園のベンチで将棋をしていた人がいたが、子どもたちが集まってきて将棋教室のようになっていた。</p> <p>シニア世代が行きやすくなることで、子どもの見守りができると、自然と3世代交流が進む。シニアが外に出ることが健康増進にもつながる。</p> <p>まちづくり会議の分科会として、公園について継続して考えていくが、市のパークマネジメントプランのサブタイトル「みんなで創り育てるさがみはらの公園」を実践していきたい。プランの中でも、季節や時間帯ごとに利用ルールを作ることが書かれているので、中央地区を一つのサンプルとして検討いただきたい</p>

	<p>い。公園は地域に住む皆が使っており、公園が良くなることで街に愛着や誇りをもって、シビックプライドの醸成につながると考えている。本日の懇談会で「一緒に考えていきましょう」と答えて欲しい。</p>
市の発言	<p>是非、一緒に考えさせていただきたい。</p> <p>淵野辺公園の「風っ子砦」という木造の遊具が老朽化しているため、今年度の建て替えをするにあたり、3回ほどワークショップを開催して地域の意見を聞き、年度内に新しい遊具の設置を進めている。</p> <p>公園は子どもから高齢者まで、世代間交流を進める良い空間であり、子ども向けの遊具が多い現状だが、高齢者向けの健康遊具を設置しているところもあり、地域と相談しながら、中央地区の公園のあり方を考えていきたい。</p> <p>PRの不足や、公園の規模についても話があったが、パークマネジメントプランに基づき、地域の要望等を聞きながら統廃合やルール作りを地域と一体になって考えていきたい。(環境経済局)</p>
地区の発言	<p>PRは行われているが、統一性がない印象なので、全体的に公園をどのように利用することができるのか、利用者側の視点があると良いと思う。</p> <p>新しい公園を作ることを考えるよりも、今ある公園を有効活用する観点で考えていきたい。公園課にはよろしくお願ひしたい。</p>
地区の発言	<p>3点お願ひしたいことがある。</p> <p>1つ目は来年度予算化し、富士見小学校の校庭の改善をして欲しい。この件は5年ほど前から様々な機会に検討をお願いしており、防球ネットの柱はそのままにして、道路側に緑地帯を5mほど移動した経過がある。富士見小学校の校庭面積を児童数で割ると、他の小学校と比べて非常に少ない面積となっている。校庭が狭ければ体育の授業にも影響がある。外で遊ぶことで、体力的、頭腦的、教育的な面から成長すると思う。富士見小学校の運動会は、「FUJISPO オリンピック」として創立以来実施しているが、保護者が入りきれない状況になっている。改善のため、防球ネットを5m移動することを予算化して欲しい。</p> <p>2つ目は富士見こどもセンターの施設定員が元々60人であり、段階を経て120人まで増やした経過がある。施設の状況をよく把握していただきたい。</p> <p>3つ目は中央小学校と富士見小学校の定数の問題について。矢部に90世帯ほどのマンションが作られており、来年完成すると聞いている。富士見小学校の教室が足りなくなるので検討いただきたい。</p>
市の発言	<p>富士見小学校の校庭については、平成26年度に運動会の保護者の観戦場所がないことから、道路の一部を歩道上の空地として整理し、学校が一体として使えるようにした。運動会の時などはネットをまくり、そこから観戦できるようにした。体育の授業に支障が出ているのであれば、学校とよく調整して検討したい。(教育局)</p> <p>富士見こどもセンターについては、第3児童クラブを活用することにより、現在の児童クラブから30人程移すことが出来るので、子どもたちがもう少し余裕を持って過ごすことが出来ると考えている。(こども・若者未来局)</p>

地区の発言	<p>こどもセンターの夏休み期間の状況を見るようにしていただきたい。利用している子どもが非常に多い。</p> <p>こどもセンターの運営側では、ネット環境がないなどの不便さを感じる場所もあるので、実態を見ているいろいろな対応を検討いただきたい。</p>
地区の発言	<p>中央公民館でも子ども食堂を実施しているが、事前に食材があっても冷蔵庫が使えないことを改善して欲しい。</p> <p>また、中央地区に無料学習塾が2か所あると聞いているがどこか。</p> <p>子ども食堂や無料学習塾のような活動が、今回のテーマに拳がった課題解決のために、地域と何か連動できることはないか。</p>
市の発言	<p>無料学習塾については2か所とも西門付近にあり、うち1か所は生活保護世帯を対象としている。</p> <p>子ども食堂や無料学習塾を新たに始めたい人は増えており、市社会福祉協議会では相談コーナーを設けたり、冊子を配布したりしている。地域の力をお借りして、子どもたちが健やかに成長し、自立できる社会にしていきたい。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>
地区の発言	<p>こどもセンターの状況を改善する工夫や、学校に地域のボランティアが関わって子どもが外で遊べる環境を作る工夫について、今後も考えていきたい。</p> <p>公園にシニアが関わることによって、3世代交流の場所が生まれる。子どもは体験から成長する。先日、研修で化石を採りに行った際に、子どもたちが非常に感動していたが、体験から得られる学びは大きい。室内でゲームばかりするのではなく、外で体験できる環境を作ることが地域の役割かもしれない。</p> <p>校庭を広くすることや使えるようにすることのために、協力していきたい地域の熱い思いを受け止めてもらいたい。</p> <p>いい形で子どもたちが育っていけるように、地域も行政も同じ気持ちで一緒に考えて行動していきたい。</p>

市長の感想等	<p>中央地区の子どもを取り巻く環境について、様々な意見をいただいた。</p> <p>公園やふれあい広場で、ボールやバットを使うことルールは地域で決めているが、自分が子どもの頃は外で遊び、近所の人に怒られたり褒められたりしながら成長してきた思いがある。</p> <p>すべての子どもは私たちの財産であり、子どもたちの成長を次の世代へと繋いでいく地域づくりが大切だと考える。</p> <p>藤野の事例になるが、地域の人と小学生と一緒に作った野菜を持ち帰れるものの、学校で食べることはできない。アレルギーの問題など、子どもたち一人一人の状況に教育委員会が取り組んでいることは理解するが、どうにかできないのか疑問もある。自分は行政出身ではなく、民間のサラリーマン、県議会議員、国会議員を経て市長になったこともあり、行政職員の常識や考え方とは異なる点もあるかと思う。様々な考えを合わせて、自分も行政職員も変わるべきところは変えていき、チャレンジをしていくことも必要だと思う。市民の皆様と同じ目線で行政に入っていきたいと思うので、これからも地域の皆様と対話をしながら取り組んでいきたい。他の地区で地域の部会に行政の参加を希望されたところもある。中央地区の地域を愛する皆様とこれからも対話をしていきたい。</p>
--------	--

自分は今後、庁内分権を考えていきたい。職員には市長を見るのではなく、72万人の市民を見てもらいたいと話している。権限や財源が市長に集中しすぎているので、これを区長や局長、まちづくりセンター所長などに分権し、それぞれが責任をもって、令和の時代にふさわしい新しい相模原市を作ることについて、少しずつ進めていきたい。

相生公園において、ルールが自然とできたという話は素晴らしいことだと思う。放課後子ども教室やこどもセンターなどの現場へ伺い、子どもたちや地域の皆様と対話をしたいと考えている。富士見小学校の校庭の課題については理解したが、台風第19号の災害により、藤野北小学校の児童は他の施設で学んでいる状況であり、その27人の児童の安全安心も考えなくてはいけないので、教育局とよく相談していきたい。

自分も市長になって、小学校のプログラミング教育に関してタブレットの普及に取組めたが、予算の配分のこと考えなくてはいけない。道路の問題なども、複数を同時に着手している状況がある中で、選択と集中が必要だと考えている。

できることとできないことが出てくると思うが、その場合には地域の皆様と知恵を出し合い、子どもたちのために未来に向けて一緒になって考えていきたいので、今後もよろしくお願ひしたい。

(市長)